

## シクリスムエコーNo.92 2002年11月号

2002 JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE .....	2	2002ロード・トラック・ランキング .....	12
第57回 国民体育大会自転車競技会 .....	4	競技大会結果 .....	14
日本スポーツマスターズ2002自転車競技会 .....	6	2002ツール・ド・台湾 日本代表選手団 .....	14
ツール・ド・おきなわ2002国際ロードレース .....	8	JOCオリンピック・フェスティバル2002 .....	15
第18回全日本BMX選手権 in 土師広島 .....	8	県車連だより -- 大分県車連 .....	15
2002年世界室内自転車競技選手権 .....	9	オープン・デ・ケイリン / ユース・オリンピック選手団 ..	16
UCIニュース -- シクロクロス競技規則 改訂 .....	10	連盟の動き / 編集後記 .....	16



# Japan Cup 2002



スプリントを制したランプレのバルベロ(左)

ジャパンカップを堪能したいのならば、前日に会場入りすることをお奨めしたい。一般参加のフリーランに出場、あるいは練習のために会場を訪れたヨーロッパのプロ選手たちが、気楽にサインや写真撮影に応じてくれる。また今年は残念ながら雨のためその姿は見られなかったが、前日開催の一般レースにプロ選手が混じって走っていたりする。運が良ければ本場のプロ選手とのランデブーが楽しめるだろう。もっともそれは、登りに差し掛かるまでのひとときの至福に過ぎないが。

ロビーに下りている時間であるならば、宿舎であるホテルで彼らに会う事も可能だ。ただしこの場合は、他の客の迷惑にならないよう十分にマナーに気をつけられたい。レース当日の、ホテルでの彼らの朝食内容も興味深いところだ。朝食はバイキング方式で様々なメニューが並べられているが、彼らが食べるのはパン、パンケーキ、パスタ、スクランブルエッグ、あるいはシリアル(持参している選手もいる)といったところ。ソーセージなら1、2本食べるが、ベーコンは食べない。ドリンクはコーヒーがほとんどだ。オレンジジュースを飲む選手もいるが、牛乳は飲まない。生野菜も食べない。日本人選手にはパンではなくご飯を食べる選手が多いが、これは食習慣の違いであろう。すなわち糖質主体で、油脂は摂らないというのが基本だ。砂糖の摂取はそれほど気にしていないようだ。

前置きが長くなったが、今年のジャ

パンカップに出場するために来日した選手は、6チーム・30名。対する国内勢は9チーム44名(外国登録選手を含む)の中には今年限りで引退する藤野智一(ブリヂストン)の名前もあったが、残念ながら今レースは欠場しチーム監督としてその姿を見せた。なお、同

チームの岡田哲也、愛三工業の鈴木新史、そしてコフィディスのクロード・ラムールも今レースでの引退が決定している。

定刻の10時にジャパンカップ151.3kmのスタートが切られた。まず飛び出したのは国内勢で、福島康司、柿沼章(以上JPCA)狩野智也、鈴木真理(以上シマノ)品川真寛(ミヤタ)武内誠、西谷雅史(以上オルベア)渋谷淳一(ブリヂストン)和野内公次(ナカガワ)の9名が、メイン集団に1分26秒の差を付けて1周目を終了。ラップタイムは22分6秒でこれは好タイムだ。2周目に品川、和野内が脱落し7名になったものの、この先頭集団はレースを6周目までリードし、一時はメイン集団に3分以上の差を付け前半のハイライトとなる(6周目に武内が脱落して6名になる)なお、3周目の山岳賞は狩野、6周目は鈴木が獲得した。

レースが動いたのは7周目であった。メイン集団のペースが一気に上がり、ヨーロッパ勢を中心とした15名が集団から抜け出して先頭集団を追いかける。このハイペースについていけない選手が次々に集団から振り落とされていく。エスケープした15名から更に3名が脱落し、残り12名が一気に先頭集団を吸収し、先頭集団は18名となった。先頭を吸収した集団のこの周回のラップタイムは20分40秒(平均時速40.9km)で、膠着時のラップタイムが23分前後(同36.8km)であることを考慮すると驚異的なタイムである(もっとも'96年の

ワールドカップの時は、このペースでレースが続いたが)そして18名の選手のうちレース前半に逃げていた柿沼、西谷、福島、渋谷が8周目の古賀志林道で脱落し、先頭集団は14名となる。そのメンバーはルーベンス・ベルトリアーティ、マッシモ・コドル、セルジョ・バルベロ(以上ランプレ)マヌエル・ベルトラン(コースト)ミカエル・ラスムセン(CTC)ルーカ・パオリニ、パトリック・シンケビッツ(以上マペイ)イゴル・アスタルロア、ファン・フエンテ、ファビオ・サッキ(以上サエコ)狩野、橋川健(ブリヂストン)鈴木、新保光起(愛三工業)だ。

山岳賞の懸かった9周目の古賀志林道の登りで、山岳賞を狙う選手によりペースが上がり、狩野と橋川の2名が脱落し先頭集団は12名となる。9周完了時にこの集団はメイン集団に4分21秒の差をつけ、優勝の権利はこの集団のメンバーに限られる様相を示してきた。序盤から好走してきたナショナルチャンピオン・鈴木がやや遅れ気味なのが気になる。レースは残り2周だ。

ここ数年の傾向では、勝負は古賀志林道でのアタックではなく、フィニッシュライン1km手前の鶴CCの登りで決まる例が多い。鶴CCの登りでアタックしフィニッシュラインまでにある程度の差をつけ、そのリードをキープしたまま古賀志林道の登りに入って、一気に決定的な差をつけてしまうというパターンだ。10周目の古賀志林道(惜しくも鈴木はここで脱落してしまう)頂上付近でランプレのベルトランがアタックを仕掛けるが、これはジャブのようなもので集団の全員が反応する。だがこれ以降は、集団に3名を残す大本命のランプレ勢によってレースがコントロールされるようになる。対抗のサエコ勢も3名の選手が残っているが、フエンテが登坂で遅れるのがネックとなりそうだ。

そして勝負所と見られた鶴CCの登りで、ランプレのバルベロがアタック。マークしたのはサエコのアスタルロアで、フィニッシュラインまでに17秒の差を後続につける。先行する2名は古賀志林道でもペースを緩めることな



く、頂上で後続との差は50秒に広がる。これで優勝は2名のどちらかに絞られた。後続集団を支配するランプレ2名はレースを振り出しに戻すような愚挙は犯さないだろうし、サエコにしてもそれは同様だ。

フィニッシュ前300m、前を走るアスタルロアは自転車を蛇行させバルベ

ロを牽制する。しかし、バルベロは焦れて前に出るようなことはしない。そしてゴールスプリントでバルベロがアスタルロアを制し、'99年に続いてこの大会2勝目を挙げた。フィニッシュタイムは4時間3分29秒で、この大会の距離が151.3kmになってからもっとも早いタイムとなった。レース内容も見ご

たえがあり、来年以降もこういった好レースが見られることを大いに期待したい。

なお、前日行われたアマチュア男子ロード(80.8km)では宮崎景涼(エキップ・アサダ・プリチストン)が、女子ロード(42.3km)は沖美穂(チェプロ)がそれぞれ優勝した。(村田 隆宣)

土曜日行なわれた女子(左端が優勝の沖)



一般参加のフリーラン



[ 競技結果 ]

ELITE (151.3km)

- 1 クロード・ラムール ITA LAMPRE 4:03:29
- 2 イゴール・アスタルロア ESP SAECO 4:03:29
- 3 フابیオ・サッキ ITA SAECO 4:03:47
- 4 ルカ・パオリニ ITA MAPEI 4:03:47
- 5 マヌエル・ペトルシ ESP COAST 4:03:47
- 6 マツタ・コドル ITA LAMPRE 4:03:47
- 7 新保 光起 JPN AISAN 4:03:47
- 8 ルベンス・ペトルシ SUI LAMPRE 4:03:47
- 9 ミカエル・ラスセン DEN CSC 4:03:47
- 10 バトリック・ジグベツ GER MAPEI 4:04:06

アマチュア男子(80.8km)

- 1 宮崎 景涼 神奈川 エキップ アサダ 2:20:10
- 2 清水 裕輔 埼玉 エキップ アサダ 2:20:36
- 3 小畑 郁 東京 なるしまF. 2:20:44
- 4 流郷 克哉 群馬 2:20:44
- 5 橋本 健 東京 Vitesse-仔加 2:20:44
- 6 管 洋介 東京 せー/A&Tマダ 2:20:44
- 7 本田 雅昭 東京 YUKIRIN 2:20:45
- 8 入井 直樹 北海道 2:20:45
- 9 辻 俊行 大阪 村ノルイ 2:20:45
- 10 中村 文武 東京 フィツ 2:20:46

女子(42.3km)

- 1 沖 美穂 JPCA チェプロ 1:19:49
- 2 大塚 歩 栃木 A+00 1:20:39
- 3 村中恵美子 東京 千葉医療福祉 1:21:11
- 4 関家 朋子 東京 ミタハ 和P. 1:24:59
- 5 小野山恵美 愛媛 エキップ U 1:25:01
- 6 石井 麻実 東京 なるしまF. 1:25:49
- 7 林 佐知子 東京 Vitesse-仔加 1:25:54
- 8 杉村 久美 岩手 ミタハ 和P. 1:28:07
- 9 真下 正美 神奈川 SY-Nak 1:29:48
- 10 中山 朋子 神奈川 ミタハ 和P. 1:31:20





## 第57回国民体育大会 自転車競技会



『いしん前進』をキャッチフレーズに、よさこい高知県体が高知県において開催されました。ロード・レースは、土佐町を発着点とした4町村を通る特設コースで開催され、トラック・レースは、坂本竜馬の志を継ぐ『りょうまスタジアム』こと、高知市総合運動場自転車競技場で開催された。

### ロード・レース

レース当日は気温が低く選手には辛い条件と成ったが、地元の熱烈な声援を受け選手は気分良く走れた事と思う。

少年は小周回コースを3周した後に大周回を回る119.2kmのコースで92名の選手により行なわれた。レースは集団より5名の選手がリードして進むが、そこから2名が脱落して3人(池田(奈良)、松村(和歌山)、立里(山形))の争いとなった。そのままゴールスプリントとなり、池田が逃げ切りレースを制した。

成年は小周回コースを6周した後に大周回を回る149.2kmのコースで89名の選手により行なわれた。レースは、集団を9名の選手が先行して進むが、そこから2名の選手(広瀬(石川)、中川(茨城))が抜け出した。しかし広瀬が残り20kmでスパートをして中川を引き離し、2位に1分37秒の大差を付けてゴールを駆け抜けた。熱心な声援が最後まで続き会場は大いに盛り上がりレースを終える事ができた。

### トラック・レース

#### 【1kmタイムトライアル】

最初の決勝種目となる少年の部で

は、記録が今一つ伸びずに、1分10秒を切る選手が現れないまま最終組を迎える。インターハイで優勝しJCFランキング1位の橋本(愛媛)と同3位で前年の国体優勝者の臼井(岐阜)の戦いは、橋本が僅かに逃げ切り栄冠に輝いた。

成年の部は同じく1分10秒を切る選手が現れないまま終盤5組を残すのみとなる。細沼(埼玉)が、1分9秒896と1分10秒を切りその後走るJCFランキング1位の在在(岡山)、2位の竹沢(富山)らにより記録更新されるのかと思っていたが、この記録を破れず細沼の優勝が決まった。

#### 【エリミネーション・レース】

決勝のレースは、インターハイ2位の安部(大分)、3位の小森(岐阜)に注目してみたが、どちらも力を出し切れ

なかったのか最後まで残る事は出来なかった。その中、小暮(群馬)が最後まで危なげないレース運びで、最後は逃げ切りこの種目を制した。

#### 【ケイリン】

ケイリン決勝には、地元高知の篠原も出場するとあって、観客席からはひととき大きな声援が上がった。レースはペーサーが離れて最終回2コーナーで篠原が先頭に立つが、伸びもここまですべて4コーナーを回る時には次々と後続の選手に抜かれていった。ゴール前では浅倉(東京)、小塚(石川)、中村(富山)、関(新潟)の4人が横一線に並びゴールラインを駆け抜けた。写真判定の結果、僅かに浅倉が差してJCFランキング1位の貫禄を見せた。

#### 【4km速度競走】

少年決勝は、近年では珍しいレースとなった。なんとスタートダッシュで先頭に立った矢代(富山)が、後続の牽制も有ったからだが、そのまま逃げ切り一着でゴールしたのである。このレースは最後まで頑張った矢代を讃えたいと思う。

成年決勝は、1番で先頭責任を完了した伊藤(山梨)がレース中盤スタミナを温存して終盤に備えた。楠本(愛知)が終盤まで我慢して一気に先頭責任を完了し、そのまま逃げ切りを狙ったが、最後は伊藤選手に抜かれ2位となった。

#### 【ポイント・レース】

少年決勝はインターハイを制してい



る身崎(宮城)昨年に続く2連覇を狙う池田(奈良)が注目された。身崎は調子が悪かったのか1位ポイント1回の合計5点と9位に終わる。一方の池田は、12回のポイント周回の内8回に絡み、3回のトップを含む28点と堂々の2連覇を飾った。最後まで食らい付いた松村(和歌山)が24点を獲得し2位に入った。

成年決勝は少年と同じく昨年の覇者でJCFランキング1位の西谷(広島)が、序盤から危なげの無い走りで、15回のポイント周回の内6回の1位ポイントを獲得し、終わってみれば34点と2位に17点もの大差をつけて2連覇を達成した。

### 《スプリント》

少年決勝は、昨年の覇者で今年度全日本アマチュア選手権、インターハイ、都道府県対抗に勝ち向かうところ敵なしの北津留(福岡)が、実力の違いを見せ付けて、すべてストレート勝ちで2連覇を達成した。

成年決勝は、共にすべてストレート勝ちして来た川村(東京)とJCFランキング1位の青木(群馬)の戦いとなった。まず青木が1回戦を勝ちこのまま決めるかと思われた2回戦を川村が取り、両者が並び四つとなつての3回戦は、青木が勝ち嬉しい優勝となった。

### 《4km団体追抜競走》

少年決勝は予選1位の大分を破った青森と、2位の岐阜を破った山形の東北勢対決となった。レースは序盤から山形がリードし、中盤青森県選手同士の接触による落車があり、なお差を広げた山形の優勝となった。

成年決勝は予選1位の広島と、2位の高知を破った茨城との戦いとなった。レースは終始広島がリードを守り、茨城を破って見事4連覇を達成した。地元高知が観客の大声援を受け3位となった。

総合成績では、大分県が2年ぶりに優勝を飾り、2位に茨城県が1点差で入った。

本大会が、地元実行委員会、自転車競技連盟、関係各位の努力により、成功裡に終わった事に、心から敬意と感謝を申し上げたい。(早坂 和広)

### 国体10回出場表彰

吉田 康則(岡山)・武藤 大輔(高知)

### [競技結果]

#### 成年男子個人ロードレース(149.2km)

1	広瀬 敏	石川 日本舗道	3:38:15.851
2	中川康二郎	茨城 スパ-K	3:39:52.656
3	西谷 泰治	広島 日本大学	3:41:51.524
4	秋田 謙	愛知 愛三工業	3:41:52.050
5	津末 浩平	大分 日本大学	3:41:52.062
6	小笠原 豪	青森 日本大学	3:41:52.214
7	大内 薫	大阪 ソノ	3:41:52.375
8	岩本竜太郎	広島 京都産大	3:41:52.551
9	土井 雪広	山形 法政大学	3:41:55.824
10	宮沢 崇史	長野	3:42:15.890

#### 少年男子個人ロードレース(119.2km)

1	池田 丈志	奈良 北大和高	2:59:33.804
2	松村 光浩	和歌山 紀北工高	2:59:34.445
3	立里 匡道	山形 山形電波	2:59:35.799
4	長江 寿也	青森 八戸工高	3:00:20.050
5	小岩 大介	大分 日出陽谷	3:01:31.832
6	辻 善光	京都 北桑田高	3:02:32.341
7	金山慎一郎	千葉 千経大高	3:04:21.718
8	熊谷 薫	福島 岩瀬農高	3:04:21.741
9	畑中 勇介	東京 昭和第一	3:04:22.898
10	吉次 裕司	山口 多々良学園	3:04:23.208

#### 成年男子1kmタイムトライアル

1	細沼 健治	埼玉	1:09.896
2	福井 敬司	鳥取 倉吉工高教	1:10.327
3	竹沢 浩司	富山 日本大学	1:10.419
4	矢野 賢児	高知 中四国自競	1:10.650
5	駒井 大輔	東京 テクニカル	1:11.089
6	斎藤 義靖	宮城 NECフロンティア	1:11.596

#### 成年男子ケイリン

1	朝倉 佳弘	東京
2	小堺 浩二	石川 京都産業大学
3	中村 幸二	富山 富山地所
4	関 智晴	新潟 関造園
5	石丸 健次	千葉 自衛隊
6	篠原 龍馬	高知

#### 成年男子ポイントレース

1	西谷 泰治	広島 日本大学	34 p
2	盛 一大	茨城 日本大学	17 p
3	小野寺 保	北海道 アイアイ	13 p
4	清水 都貴	鹿児島 鹿屋体育大学	13 p
5	武藤 大輔	高知 高知中央郵便局	13 p
6	高橋 栄光	岩手	12 p

#### 成年男子スプリント

1	青木 亮太	群馬
2	川村 崇	東京 早稲田大学
3	文山 良晃	福島
4	湯原 正行	長野 NPO法人HSSC
5	佐藤 力彦	大分
6	橋本 勝弘	愛媛 橋本防水

#### 成年男子4km速度競走

1	伊藤 太一	山梨 日本大学
2	楠本 正昭	愛知 愛三工業
3	出井 光一	千葉 DSK
4	鈴木 謙一	静岡 法政大学
5	糸賀 賢司	福島 日本大学
6	松本 陽介	群馬 ヴァグワイル

#### 成年男子4km団体追抜競走

1	広島 吉井・福本・西谷・吉野	4:39.298
2	茨城 盛真・中川・盛一・岡田	4:43.373
3	高知 矢野・篠原・武藤・中山	4:41.939
4	愛知 稲田・秋田・坂口・楠本	4:43.778

5	埼玉 細沼・菅原・高島・有賀	4:41.027
6	大分 安東・梶原・佐藤・門前	4:41.274

#### 少年男子1kmタイムトライアル

1	橋本 強	愛媛 松山聖陵高	1:10.120
2	臼井 昌巨	岐阜 岐南工業高	1:10.237
3	須賀 和彦	茨城 取手第一高	1:10.358
4	浅井 康太	三重 朝明高校	1:10.891
5	田中 晴基	千葉 千葉経大高	1:10.907
6	宿口 陽一	埼玉 川越工業高	1:11.048

#### 少年男子ポイントレース

1	木暮 安由	群馬 前橋工業高校
2	立里 匡道	山形 山形電波工業高校
3	加藤 愛彬	山口 多々良学園高校
4	安部 龍文	大分 別府商業高校
5	山崎 悟	茨城 取手第一高校
6	山田 賢	神奈川 向上高校

#### 少年男子ポイントレース

1	池田 丈志	奈良 北大和高校	28 p
2	松村 光浩	和歌山 紀北工業高校	24 p
3	熊谷 薫	福島 岩瀬農業高校	18 p
4	西村 光太	三重 三重高校	12 p
5	守澤 太志	秋田 大曲農業高校	10 p
6	谷垣 雄基	京都 北桑田高校	9 p

#### 少年男子スプリント

1	北津留 翼	福岡 豊国学園高校
2	疋田雄一郎	大分 日出陽谷高校
3	河端 朋之	鳥取 倉吉工業高校
4	前田 義和	鹿児島 鹿児島実業高校
5	吉松 賢二	群馬 前橋工業高校
6	五日市 誠	青森 八戸工業高校

#### 少年男子4km速度競走

1	矢代 慎吾	富山 氷見高校
2	福島 武士	香川 高松工芸高校
3	小野 大介	福島 平工業高校
4	福田 寿	茨城 取手第一高校
5	村上 純平	山形 山形電波工業高校
6	佐藤 幸治	秋田 六郷高校

#### 少年男子4km団体追抜競走

1	山形 笹原・立里・三瀬・村上	4:44.680
2	青森 蛭名・五日市・坂本・成田	4:51.410
3	大分 小川・安部・小岩・柿本	4:39.936
4	岐阜 臼井・小森・青木・中島	4:44.251
5	熊本 川崎・假屋・播正・三嶋	4:41.601
6	秋田 今野・根本・守澤・佐藤	4:41.924

#### 団体総合

1	大分	47点
2	茨城	46点
3	福島	37点







# 日本スポーツマスターズ2002 自転車競技会



日本スポーツマスターズ2002は11月8日(金)横浜プリンスホテルにて総合開会式(前夜祭)が高円宮殿下のご臨席のもと盛大に行われた。

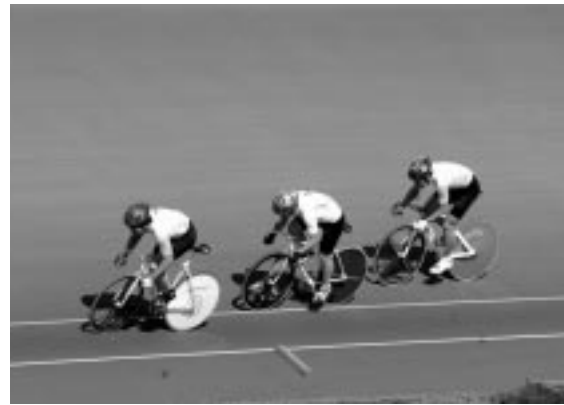
競技は11月9日から12日の4日間の日程(ゴルフは6日~先行開催)で13競技(陸上競技、水泳、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、バドミントン、空手道、ボウリング、綱引、ゴルフ、自転車競技)が神奈川県8市2町の22会場で実施された。



昨年宮崎で行われた第1回大会の5,354名を上回る6,056名が参加。自転車競技は今回より新たに加わり、11月9日から10日の2日間の日程で平塚市・平塚競輪場にて開催された。

参加者は35歳以上で男子は年齢によって1部から5部に分かれており、参加者達はそれぞれの部で健脚を競った。また、9日(土)昼休みの時間に今回の日本スポーツマスターズ・シンボルメンバーのひとりの中野浩一氏によるサイクル教室も行われた。平塚競輪場(愛称:湘南バンク)の会場は家族みんなで応援をしたり、小さな子供達が走りまわったり、普段とはまた違う和やかな雰囲気を感じられた。

来年は和歌山県で総合開会式9月19日(金)で競技は20日(土)・21日(日)の予定。



日本スポーツマスターズは、“スポーツ愛好者の中で、競技志向の高い中・高齢者を対象としたスポーツの祭典のシンボリックな大会です。参加者がお互いに競い合いながらスポーツに親しむことにより、生涯スポーツのより一層の普及・振興を図り、併せて、生きがいのある社会の形成と、健全な心身の維持・向上に寄与しようとする生涯スポーツ社会への実現に寄与するものである。”とあります。21世紀は生涯スポーツの時代といえるのでしょうか。

広くスポーツを文化として捕らえた場合、私達は日々の暮らしの中にスポーツを取り入れることによって、「こころ」と「からだ」のバランスが保たれているように感じます。

スポーツで流す汗は他では得られない爽快感や充実感が得られます。来年のマスターズを目標に自転車に乗ってみてはいかがでしょうか。

**SHIMANO**

勝つための選択



**SPD**  
SHIMANO PEDALING DYNAMICS

株式会社シマノ 〒590-8577 堺市老松町3丁77番地 「お客様相談窓口」 電話 072-243-2829  
当社の自転車部門の製品カタログご希望の方は、『カタログ希望』と明記し、300円切手同封の上、  
〒590-0944 堺市柳屋町東1-1-1「シマノクラブPRセンター」宛にご郵送下さい。  
シマノ自転車製品は、インターネットホームページ“<http://cycle.shimano.co.jp>”でもご覧になれます。

乗車したまま走りきるコースレイアウトがマウンテンバイクレースの世界的な流れになっています。シマノはよりペダリングを重視したSPDシューズ&ペダルをそろえています。

高強度カーボンソール搭載  
軽量シューズ

SH-M220  
¥17,800  
標準小売価格(税別)



泥ハケ性能  
ステップイン&アウト  
フィーリングを  
大幅に向上

PD-M959  
¥13,700  
標準小売価格(税別)



## 「日本スポーツマスターズ2002自転車競技会」に参加して

自転車トラック競技が、第1回日本マスター大会として晴天に恵まれた、神奈川県平塚競輪場で開催され、今回参加させていただきました。

ご存知のとおり、トラック競技にはレベルや年代別カテゴリーが無く、20代や実業団のトップと走ることもあり大変苦しいスポーツですが、その中で今回生涯スポーツとして日本でも公式マスター大会として開催されたことは大変有意義な事です。年を重ね体力が落ちていく競技者にとっては大変励みになり必ず今後、トラック競技人口の拡大につながるきっかけになると思います。

当日、大会には元国体選手や、引退された競輪選手の方も積極的に参加され大いに盛り上がり、

各クラスでレベルの高いレースを見ることが出来ました。

ただ、参加させていただいて感じたことは、競技役員より少ない参加者数でしょうか。種目によっては1部から5部までのオープン競技もあり30歳代と50歳代では体力の開きは歴然だと思いました。少なくとも100名前後のエントリーになれば各カテゴリーのレースが成立し、より盛り上がった大会になったのではないかと思います。

今後、さらに大会を発展させるには個人登録の募集と併せて、必ず各都道府県車連が積極的に選手派遣をしていくべきだと思います。(将来的には国体におけるマスターの部開催へ)

私、個人としては40を過ぎ家庭や

仕事が忙しく自転車に乗る機会が減り、昔のイメージの走りは出来ませんが、参加により大変刺激になり、これを機に来年の大会には是非楽しめるよう、トレーニングに励みたいと思います。

大会役員の方々はこの様な機会をいただき感謝すると共に、来年は是非多くの競技者が集い、生涯スポーツとして大会が盛り上がることを願います。(登坂 昭彦)



登坂 昭彦 とさか あきひろ  
埼玉県在住、40歳、  
東京都内の出版会社に勤務

## [ 競技結果 ]

## 男子1kmタイムトライアル

## &lt; 1部 &gt;

1	千葉 浩	岩手	1:11.568
2	山下 永	埼玉	1:15.934
3	茂木 高広	埼玉	1:19.864

## &lt; 2部 &gt;

1	稲場 勉	愛知	1:13.790
2	青木 康博	岩手	1:14.491
3	後藤 高明	大分	1:15.173

## &lt; 3部 &gt;

1	外勢 肇	愛知	1:14.289
2	小田 秀明	静岡	1:17.762
3	大路 修一	神奈川	1:25.865

## &lt; 4部 &gt;

1	河合 和美	埼玉	1:16.903
2	渡辺 正彦	埼玉	1:17.963
3	松本 充	埼玉	1:23.270

## &lt; 5部 &gt;

1	細山 正一	東京	1:21.855
2	渡部 経治	神奈川	1:28.189
3	橋本 鈞	東京	1:28.508

## 男子スプリント

## &lt; 1 - 3部 &gt;

1	田中伊久男	奈良
2	山田富美雄	岐阜
3	坂上 信也	北海道

## &lt; 4 - 5部 &gt;

1	西丸 房雄	福岡
2	若杉 平雄	愛知
3	吉田 正紀	岩手

## 男子ケリ

## &lt; 1部 &gt;

1	田中伊久男	奈良
2	茂木 高広	埼玉
3	小出 明男	東京

## &lt; 2部 &gt;

1	越猪 澄	愛知
2	門松 克己	大阪
3	稲場 勉	愛知

## &lt; 3部 &gt;

1	山田富美雄	岐阜
2	高橋 秀樹	静岡
3	川崎 正志	大阪

## &lt; 4部 &gt;

1	西丸 房雄	福岡
2	若杉 平雄	愛知
3	吉田 正紀	岩手

## &lt; 5部 &gt;

1	渡部 経治	神奈川
2	橋本 鈞	東京
3	白新田 攻	東京

## 男子3km個人追抜競走

## &lt; 1部 &gt;

1	千葉 浩	岩手	3:51.710
2	山下 永	埼玉	3:57.060
3	金 世保	愛知	4:12.985

## &lt; 2部 &gt;

1	鎌田 彰	栃木	4:00.148
2	後藤 高明	大分	4:02.315
3	白石 隆	大分	4:05.267

## &lt; 3部 &gt;

1	小田 秀明	静岡	4:14.186
2	八城 敏広	福島	4:24.829

## &lt; 4部 &gt;

1	渡辺 正彦	埼玉	追抜勝
2	藤田 照夫	埼玉	-
3	松村 芳陽	神奈川	4:52.905

## &lt; 5部 &gt;

1	細山 正一	東京	4:12.668
---	-------	----	----------

## 男子16kmスプリント

1	愛知 (外勢・越猪・稲場)	1:25.231
2	岩手 (千葉・吉田・青木)	1:25.811
3	大分 (後藤・来・白石)	1:28.731

## 男子16kmタイムトライアル

1	金 世保	愛知	26 p
2	鎌田 彰	栃木	25 p
3	河合 和美	埼玉	14 p

## 女子2km個人追抜競走

1	濱田 真子	東京	2:55.826
2	中尾 訓子	京都	3:13.354

## 女子500mタイムトライアル

1	濱田 真子	東京	42.594
2	松本 里香	東京	46.328
3	中尾 訓子	京都	47.263

## [ 年齢区分 ]

男子	1部	35歳以上、40歳未満
	2部	40歳以上、45歳未満
	3部	45歳以上、50歳未満
	4部	50歳以上、55歳未満
	5部	55歳以上
女子		35歳以上



## ツール・ド・おきなわ 2002 国際ロードレース



本州に寒風が吹き雪の便りが届く中、シーズン最後で最長距離のツール・ド・おきなわ2002がやんばる沖縄で開催され、海外6チーム・国内18チームの99名が出走した。(気温23 )

早朝7:00スタートなので、夜明け前より忙しく準備を行う。

スタート後しばらくは平坦路を走るが、ここで柿沼(GIANT)・日置(KINAN)が集団より飛び出し、最大2分半のリードを得る。そして前半に4つ設けられた各町村スプリントをお互いに譲り合い、両者とも2つずつ獲得した。

最初の山岳ポイントの登り口で2名と集団のタイム差は2分。ここの登り(H=350m・6km)で、集団がレースを始めた。山岳ポイントは日置が獲得したが、下り始めてすぐに集団に追いつかれた。山越えはしたもののアップダウンの多い場面で新しい18名の先頭集団が構成される。100km地点で先頭8名から集団までは2分。だが、レースはまだ

半分である。

5つ目のスプリントは、KERMER (MarcoPolo)が獲得。沖縄本島最北の辺土岬を廻り、ゴールまで80km地点でタイム差は2分半。2度目になる山岳ポイントの登りに入る。この登りでメイン集団が追撃開始。山岳

ポイントは西谷(ORBEA)が獲得。

山岳を下り、ゴールの名護へ向かってアップダウンが続く厳しい場面では追撃集団が先頭に迫り着く。先頭集団は18名。メンバーは、狩野・鈴木(以上シマノ)・WALTERS(CANADA)・田代・廣瀬(以上BS)・真鍋・中川(以上ミヤタ)・別府・広瀬・岡崎(以上日本舗道)・GLIFFIN(IRLAND)・KERMER・新保(アイサン)・福島(JPCA)・REDENBACH(GIANT)・西谷・西村(ナカガワ)・盛(日大)。

先頭集団にも疲労度の違いがあり、なかなかまとまらない。度重なる揺さぶりの中、集団が12名となり、先頭からメイン集団まで3分となってこの12名による勝負となった。最後となる6つ目のスプリントは田代が獲得。

沖縄本島を横切るための山越え(175km地点)で先頭集団は分裂し、狩野・鈴木・田代・広瀬・REDENBACHの5名となった。

ゴールは、まず鈴木がアタックしたが

不発だった。残り200mでREDENBACHが1人アタックして、198.6kmのレースはオーストラリア人が勝者となった。

女子国際ロードレース(50km)は、海外で活躍している沖(JPCA)が勝者となる。

ツール・ド・おきなわ実行委員長の森氏の「いつもは、風が強く気を使いますが、今年は風のほうが気を使ってくれて、ゴールタイムを更新できました。」とのコメント通り、風が余り強くなかったのでレース展開に積極性があつた今年の大会であった。(榎 正人)

### [ 競技結果 ]

男子国際ロードレース(198.6km) UCI 1-5			
1	REDENBACH Paul	TPE GIANT ART	4:47:41
2	広瀬 敏	石川 日本舗道	4:47:41
3	田代 恭崇	JPCA プリザスト	4:47:41
4	鈴木 真理	JPCA シマノ	4:47:43
5	狩野 智也	JPCA シマノ	4:47:49
6	岡崎 和也	JPCA 日本舗道	4:48:52
7	福島 晋一	JPCA JPCA	4:49:45
8	真鍋 和幸	JPCA ミヤタ	4:52:11
9	別府 匠	神奈川 日本舗道	4:52:14
10	廣瀬 佳正	JPCA プリザスト	4:52:48

女子国際ロードレース(50km)			
1	沖 美穂	JPCA JPCA	1:23:52
2	GRAIN Gina	CAN CANADA	1:23:52
2	KROEPSCH Lara	USA USA	1:23:52
4	GRIMBERG Arenda	NED Marco Polo	1:23:52
5	大塚 歩	栃木 A+00	1:23:52
6	KELLY Kori	USA USA	1:23:52
7	森本 朱美	鳥取 刈和	1:23:52
8	小高セツコ	埼玉 LPN東京	1:23:52
9	ST.LAURENT Katy	CAN CANADA	1:23:52
10	杉村 久美	岩手 刈和	1:23:52



## 第18回全日本BMX選手権 in 土師広島



10月13日(日)広島県高田郡八千代町土師ダムBMXトラックにて第18回全日本BMX選手権大会が開催された。

会場は昨年9月に西日本BMX選手権が開催された場所だが、新しく改修され、なかなかの出来上がりで楽しめるトラックとなっていた。広島県BMX協会の役員の方々は、このコース改修に大変苦労された事と思われる。

今回、地元八千代町並びに国土交通省土師ダム管理所等の全面的なバックアップのおかげで、楽しく参加選手

も伸び伸びとレースに熱中していた。また、同時開催でダムの周りで「山なみ大学祭」が行われ、一般観客もたくさん集まり、5~6オクラスに大きな声援が飛んでいた。天気にも恵まれ、とてもソフトな気分で終始した全日本大会であった。

最後にNHKテレビの撮影関係のディレクターの「生まれて初めて見ましたが、鳥肌が立った程感激しました。」と感想。これが観客の全部の気持ちだったと思います。(蒔田 一)





# 2002年世界室内自転車競技選手権



今年の大会は、2002年10月25日～27日の3日間、オーストリア西部のポードン湖に近い、ドルンベルン市で開催された。選手団は20日に現地入りし、大会会場より10km程離れたブリーゲンツにて、21日～23日の3日間トレーニングキャンプに参加し、調整をはかった。

大会1日目、サイクルフィギュア女子ペアに堀井和美・小野寺千春が出場。堀井は15日より現地入りし、ドイツ在住の小野寺と調整した甲斐あり、その無い演技で、得点241.20で9位の成績であった。サイクルサッカーは8カ国がエントリーしたBグループに出場した。4ヶ国づつグループB1とB2に分かれ、日本の都築勝巳・松田鋼チームはB2でオーストリア・クロアチア・香港とリーグを行い、全く危なげなく3戦全勝で1位とし、予選リーグを制した(2位香港・3位クロアチア・4位オーストリア)。B1は1位ルーマニア・2位アメリカ・3位ハンガリー・4位マレーシアの結果であった。Bグループ順位決定戦では、1・2位をかけて、日本チームはグループB1・1位のルーマニアと対戦した。激しい攻防の結果、本戦は3:3の引き分けで、PK戦の決着となっ

たが惜しくも敗れ、Bグループ2位の成績となった。しかし、最終日のAグループとの入れ替えリーグが残っており、本当の戦いはこれからであった。

2日目、サイクルフィギュア女子シングルに小野寺千春が出場し、266.03点で17位の成績であった。持ち点からすると少し不本意な成績であったが、新しい難度の高い技もみられ今後に期待を託した。

3日目、サイクルフィギュア男子シングルに佐浦裕行が出場。こちらもち点からするとやや不本意な成績で、264.61点の18位であった。総じてサイクルフィギュアは、国内の練習場所・指導者・若手の育成と課題を多く残す結果であった。

日本選手団最後の競技となった、サイクルサッカーAグループ入れ替え戦は、ドイツ・フランス・ルーマニアとのリーグで行われ、ドイツとは圧倒的な力の差に完敗であった。もとより、フランス戦に勝ってAグループ入りを期待しており、実力的にも今回は練習試合等で相当の勝てる感触があった。前半は2:2の同点で折り返し大きく期待が膨らんだが、結果5:2で敗れAグループの壁を破れず涙をのむこととなった。サイクルサッカーは確実に世界のレベルに近づいており、来年こそAグループ入り出来る可能性が高いと思われる。しかしAグループトップとの差はまだ大きく、サイクルフィギュア同様の課題を今後どう乗り越えていくか、厳しいけれども将来が楽しみで

ある。

今回の会場は、アイスホッケーの競技場に約7,000人が収容出来るようにスタンドが特設されていた。それが、1日目から満席状態になり、3日目にいたっては2階席・3階席後方の立ち見まで一杯で、大きな歓声に身震いを覚え、その熱気、大人から子供までのその人気の高さに、あらためて感激させられた大会であった。

## [ 競技結果 ]

### サイクルフィギュア女子シングル

1	STEPANKOVA Martina	チェコ	334.19 p
2	RUCKABERLE Astrid	ドイツ	329.19 p
3	GAISER Silke	ドイツ	328.23 p
17	小野寺千春	日本	266.53 p

### サイクルフィギュア女子ペア

1	INGELFINGER C. / KNAACK K.	ドイツ	311.53 p
2	SCHONBERGER M. / GAISER S.	ドイツ	308.40 p
3	STAHEL L. / STAHEL S.	スイス	286.77 p
9	堀井和美 / 小野寺千春	日本	241.20 p

### サイクルフィギュア男子シングル

1	ROMINGER Martin	ドイツ	348.63 p
2	POKORNY Arnost	チェコ	329.92 p
3	KRIVANEK Milan	チェコ	329.10 p
18	佐浦 裕行	日本	264.61 p

### サイクルサッカーAグループ

1	スイス	LOOSER P. / JIRICEK P.
2	オーストリア	SCHALLER M. / SCHNEIDER R.
3	チェコ	SMID P. / SKOTAK P.
4	ベルギー	BAUDU C. / DEUVAERT R.
5	ドイツ	HAUSER J. / ABEL T.
6	フランス	MAILLAVIN M. / MARCOUX F.

### サイクルサッカーBグループ

1	ルーマニア	DOROFTEI D. / WASMER R.
2	日本	都築 勝巳 / 松田 鋼
3	アメリカ	YARBROUGH K. / BERRY C.
4	香港	LO Man Fai / HO Wing Tai
5	クロアチア	SZABO A. / TVRDI D.
6	ハンガリー	TAKACS A. / SZITAS T.

### サイクルサッカー入替戦

1	ドイツ
2	フランス
3	日本
4	ルーマニア



## [ 競技結果 ]

### スノーケウス

1	三浦 進	KBU
2	阪本 章史	KBU
3	黒田 淳	岡山
4	赤城 友治	岡山
5	水口 崇	広島
6	土井 昭	KBU

### 男子7歳以下

1	高橋 晃太	岡山
2	野島 遊	KBU
3	高木 智那	新潟

### 男子8歳～9歳

1	池田 大暉	新潟
2	高木 理太	新潟
3	吉村 樹希敢	KBU

### 男子10歳～11歳

1	古性 優作	KBU
2	鶴飼 森哉	岡山
3	高橋 堅太	岡山

### 男子12歳～13歳

1	藤沢 雄一	岡山
2	三瓶 将廣	KBF
3	藤原 海渡	KBF

### 男子14歳～16歳

1	信清 達也	岡山
2	赤城 文隆	岡山
3	村山 裕基	広島

### 男子17歳～29歳

1	山崎 洋平	KBU
2	逸崎 智也	KBU
3	佐々木裕司	広島

### 男子30歳～34歳

1	宇都宮真紀	広島
2	石飛 剛	新潟
3	秋山 尚文	愛媛

### 男子35歳～39歳

1	小島 勉	KBU
2	三輪 隆志	広島
3	古性 秀一	KBU

### 男子40歳以上

1	藤原 信彦	KBF
2	濱 庄吉	岡山
3	安村 雄二	広島

### カールズ 12歳以下

1	三輪 郁佳	広島
2	岸本 絵理	KBU
3	飯端 美樹	KBU





UCI規則第V部シクロクロス・レースが、2002-2003年版として下記のように改訂された。

## 第I章 シクロクロス競技規則

### 器材ピット

- 5.1.030 コース上に2つのピットを、スピードがあまりあがらず、石が少なく、降り坂でない場所に、よく配慮して配置する。ピットは直線部で、人工障害物を設けない。  
各周回で、競技者が極めて相互に近い2点を通る場合、ダブル・ピットとして知られる、1箇所のピットをその場所に設置できる。

世界選手権大会、ワールドカップ、第1カテゴリーの競技大会、国内選手権大会において、ダブル・ピット設置は義務付けられる。

(改訂は2003年9月1日より発効)

- 5.1.038 競技者はどのピットにおいても車輪あるいは自転車を交換することができる。

(改訂は2002年9月1日より発効)

### スタート順

- 5.1.042 競技者は集合場所(点呼地点)に、最長スタート10分前から集合しなければならない。

競技者は少なくとも片足を地面についてスタートを待たなければならない。これに従わない者は、スタート・レーンの後方に送られる。

(改訂は2002年10月1日より発効)

- 5.1.043 ワールドカップと第1、第2、第3カテゴリーの大会におけるスタート時の並び順は以下のように決定する:

(a): シーズンの最初の競技からワールドカップの最初のレースまで:

- 第5.2.010条による国別ランキングにより国順が決められ、ランキングにない国がその後に、コミセール・パネルによる抽選で決められた順に並ぶ。
- 各国は順に、UCIランキングを持つすべての競技者が割当てられるまで、その国の競技者のうちUCIシクロクロス・ランキングで最上位の競技者からスタート位置が割当てられる。
- UCIシクロクロス・ランキングを持たない競技者は、国別の同様の方法を続けて、すべての他の競技者の後に位置づけられる。

(b): そのシーズンのその他の全競技: 最新のワールドカップ順位の上位24競技者、次にその他の競技者がUCIシクロクロス・ランキングによる順; UCIシクロクロス・ランキングに見出せない競技者は最後に、コミセール・パネルによる抽選で決められた順に並ぶ。

(改訂は2002年10月1日より発効)

- 5.1.044 世界選手権大会におけるスタート時の並び順は以下のように決定する:

#### A. エリート・カテゴリー

最新のワールドカップ順位の上位24競技者、次にその他の競技者がUCIシクロクロス・ランキングによる順

UCIシクロクロス・ランキングに見出せない競技者は最後に、コミセール・パネルによる抽選で決められた順に並ぶ。

(改訂は2002年10月15日より発効)

- 5.1.045 B: "女子", "U23"および"ジュニア" カテゴリー

- 各国内連盟は、スタートする競技者を確定する際に、競技者の順番を明確にしなければならない。

- 前シーズンの世界選手権大会における国別順位に従って国内連盟は順位付けられる。

- 各国内連盟は順に、その次の競技者に適切な列の場所を割り当て、すべての競技者に割当てられるまで続ける。

- 上記の国別順位を持たない国内連盟は、同様の字輪番号方法を用いて最後尾に、コミセール・パネルによる抽選で決められた順に並ぶ。

(改訂は2002年10月1日より発効)

## 第II章 UCIシクロクロス・ランキング

- 5.2.004 これらの競技は、与えられる得点に従い7つのカテゴリーに分けられる:

- a. 世界エリート選手権大会
- b. 世界U23選手権大会
- c. 国内選手権大会
- d. ワールドカップ大会(1国1大会)

- e. 第1カテゴリーの大会
- f. 第2カテゴリーの大会
- g. 第3カテゴリーの大会

最少5ヶ国からの最少10名の外国人競技者が前シーズンの大会においてスタートしなかった大会には、第1カテゴリーの格付けは与えられない。

(改訂は2004年9月1日より発効)

### 第III章 ワールド・シクロクロス・カップ

#### 参加

- 5.3.005 シクロクロス・ワールドカップは、エリートとU23競技者による個人競技である。競技者は、その国籍のある国の国内連盟からエントリーする。  
(改訂は2002年10月1日より発効)
- 5.3.006 各国内連盟は、最少1名のU23競技者を含む6名の競技者をスタートさせるためにエントリーすることができる。もし国内連盟がU23競技者をスタートさせない場合、最多5名のエリート競技者が走ることができる。  
(改訂は2002年10月1日より発効)
- 5.3.007 各競技者は、その所属する国内連盟のジャージを着用しなければならない。彼は、その同じ衣服上において、規則第1.3.058条(b)項に明記されるスポンサーの存在を示す詳細な指示に基づく権利を持つ。  
(改訂は2002年10月1日より発効)
- 5.3.008 国内連盟はUCIが提供する用紙を用いてエントリーしなければならない。完全に記入された用紙は、用紙に示された期限内にファクシミリにてUCIと主催者に送付されなければならない。  
(改訂は2002年10月1日より発効)
- 5.3.009 大会の3日前までに、国内連盟はUCIと主催者に、ファクシミリにて正競技者(最多6名)と補欠(最多4名)を確定しなければならない。  
(改訂は2002年10月1日より発効)

#### ランキング

##### 5.3.013 個人ランキング

下記の表により各大会上位30名の競技者に得点を与える。

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
得点	60	50	45	40	35	30	28	26	24	22	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

最後の大会においては、上記に示すポイントの2倍が与えられる。

(改訂は2002年9月1日より発効)

- 5.3.014 U23競技者のワールドカップ・ランキングは、個人ランキングを基に作製される。このランキングにおいては、ワールドカップ最終戦における最終総合ランキングを対象としてのみ表彰式を行う。  
(改訂は2002年10月1日より発効)
- 5.3.015 ワールドカップのプロローグとして行なわれる女子普及競技のための総合ランキングは、第5.3.013条のポイント・スケールに従って作製されなければならない。  
(改訂は2002年10月1日より発効)

#### 国別ランキング

- 5.3.016 国別ランキングは、エリートとU23競技者の個人順位における各国ごとの上位3名の競技者の順位に基づいて作成される。2名の競技者がフィニッシュした国については、3名がフィニッシュした国の次に順位付けられる。1名のみフィニッシュした国は、2名フィニッシュした国の後に順位付けられる。  
(改訂は2002年10月1日より発効)

#### トロフィー

- 5.3.022 UCIはトロフィーを与える:

- ワールドカップ個人総合順位における勝者に
- ワールドカップ個人総合順位における2位、3位に
- ワールドカップ国別総合順位における勝者に
- ワールドカップU23個人総合順位における勝者に

これらのトロフィーには、ワールドカップおよびUCIのスポンサーの名称および/またはロゴを表示する。

(改訂は2002年9月1日より発効)

2002 ロード・トラック・ランキング (10月現在)

[ロードレース]

男子エリート・ロードレース

E	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	鈴木 真理	JPCA	E	P	5,817.6
2	岡崎 和也	JPCA	E	P	5,202.0
3	狩野 智也	JPCA	E	P	5,126.3
4	今西 尚志	京都	E	m	4,602.7
5	新保 光起	JPCA	E	P	4,226.3
6	広瀬 敏	石川	E	P	3,980.7
7	飯島 誠	JPCA	E	P	3,698.6
8	真鍋 和幸	JPCA	E	P	2,941.0
9	田中 光輝	愛知	E	m	2,496.9
10	中川 康二郎	茨城	E	m	2,166.0
11	西村 拓也	京都	E	E	2,164.7
12	行成 秀人	岡山	E	E	2,050.4
13	阿部 良之	JPCA	E	P	1,815.2
14	日置 大介	兵庫	E	E	1,794.5
15	秋田 謙	愛知	E	E	1,660.9
16	大内 薫	大阪	E	E	1,656.5
17	坂口 博	愛知	E	E	1,637.1
18	山本 雅道	神奈川	E	E	1,634.4
19	福島 晋一	JPCA	E	P	1,616.3
20	江下 健太郎	愛知	E	E	1,600.5
21	水谷 壮宏	JPCA	E	P	1,597.3
22	渋谷 淳一	JPCA	E	P	1,597.1
23	柿沼 章	JPCA	E	P	1,449.8
24	別府 匠	神奈川	E	E	1,331.5
25	西谷 雅史	東京	E	m	1,143.2
26	岡田 哲也	JPCA	E	P	1,111.8
27	藤野 智一	JPCA	E	P	1,072.0
28	長野 耕治	愛媛	E	E	1,066.4
29	広瀬 学	石川	E	m	1,007.0
30	鈴木 新史	JPCA	E	P	935.7
31	矢澤 真幸	京都	E	E	905.7
32	橋川 健	JPCA	E	P	898.4
33	高橋 栄光	岩手	E	E	823.3
34	飯島 規之	JPCA	E	P	800.0
35	森 正和	静岡	E	E	794.3
36	廣瀬 佳正	JPCA	E	P	735.0
37	田代 恭崇	JPCA	E	P	672.0
38	田中 泰治	北海道	E	E	641.4
39	高橋 秀作	秋田	E	E	621.5
40	榊井 幹雄	JPCA	E	P	600.0
41	棟久 明博	山口	E	E	549.9
42	本間 啓介	山形	E	m	548.5
43	高橋 祐介	栃木	E	E	544.4
44	辻 俊行	大阪	E	E	536.7
45	入井 直樹	北海道	E	m	530.0
46	飯田 輝男	茨城	E	E	525.0
47	西村 拓朗	京都	E	E	508.2
48	伊藤 博人	秋田	E	m	488.0
49	中井 健二	JPCA	E	P	480.0
50	小林 太樹	大阪	E	m	466.2

男子U23・ロードレース

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	西谷 泰治	広島	U		2,097.7
2	品川 真寛	京都	U		1,989.2
3	盛 一大	茨城	U		1,903.7
4	岩本 竜太郎	広島	U		1,883.4
5	圓谷 崇	福島	U		1,445.6
6	清水 良行	岡山	U		1,353.9
7	和野内 公次	大阪	U		1,306.3
8	石田 哲也	愛知	U		1,251.7
9	小野 寺孝太	愛手	U		1,193.1
10	小笠原 豪	青森	U		1,166.6
11	山本 敬純	大阪	U		1,075.4
12	辻浦 圭一	奈良	U		1,061.7
13	吉井 淳	広島	U		1,058.8
14	小林 誠	滋賀	U		1,015.4

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
15	普久原 奨	沖縄	U		992.2
16	上田 誠	奈良	U		979.7
17	辻 龍一	大阪	U		959.4
18	土井 雪広	山形	U		927.7
19	津末 浩平	大分	U		907.6
20	鈴木 謙一	静岡	U		904.9
21	河野 通明	東京都	U		861.3
22	郡山 善貴	岐阜	U		836.5
23	井上 和郎	福井	U		805.2
24	内山 靖樹	大阪	U		798.0
25	宮崎 景涼	神奈川	U		774.6
26	辻 貴光	京都	U		735.8
27	明珍 多久雄	福島	U		723.2
28	渡邊 哲平	京都	U		687.7
29	別府 史之	神奈川	U		680.0
30	室井 祐介	愛知	U		667.5

男子ジュニア・ロードレース

J	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	池田 丈志	奈良	J		1,994.9
2	西村 光太	三重	J	u	1,455.5
3	天沼 雅貴	北海道	J		1,121.3
4	松村 光浩	和歌山	J		1,097.1
5	辻 善光	京都	J		1,017.3
6	小岩 大介	大分	J		1,015.1
7	立里 匡道	山形	J		899.7
8	村上 純平	山形	J		844.9
9	中島 康晴	福井	J		827.8
10	谷垣 雄基	京都	J		743.3
11	畑中 勇介	東京	J		669.3
12	長 義幸	和歌山	J		634.1
13	長沼 隆行	埼玉	J		631.1
14	小椋 康寛	岐阜	J	s	577.8
15	熊谷 薫	福島	J		574.6
16	笹原 裕	山形	J		566.3
17	吉次 裕司	山口	J		496.6
18	島田 真琴	山京	J	u	485.9
19	大村 寛	鹿児島	J		485.1
20	小野 哲裕	神奈川	J		485.0
21	成田 将平	青森	J		480.3
22	山田 賢	神奈川	J		478.5
23	池田 良	広島	J	u	421.3
24	舟木 誠	福島	J		416.0
25	柿本 勇介	大分	J		412.6
26	金山 慎一郎	千葉	J		398.8
27	児玉 規英	東京	J		370.8
28	寺川 慧	広島	J		370.7
29	前田 雅則	和歌山	J		367.4
30	三瀧 光誠	山形	J		352.9

女子・ロードレース

F	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	中村 珠藻	奈良	U		3,516.5
2	大塚 歩	栃木	E		3,420.0
3	杉村 久美	岩手	E		3,165.0
4	村中 恵美子	東京	E		2,994.5
5	西 加南子	千葉	E		2,835.5
6	大塚 恵美	東京	U		2,389.0
7	小野山 恵美	愛媛	E		2,319.5
8	許斐 真由子	鹿児島	U		2,045.5
9	坂井 田理沙	青森	U		1,607.0
10	唐見 実世子	石川	E		1,523.5
11	坂田 佳子	兵庫	E		1,500.0
12	斎藤 綾	秋田	U		1,428.0
13	沖 美穂	JPCA	E		1,400.0
14	前川 康子	奈良	U		1,225.4
15	塩原 桂子	東京	E		1,196.5
16	中山 朋子	神奈川	E		1,184.1
17	小高 セツコ	埼玉	E		1,171.4
18	小野 翔子	栃木	J		992.9
19	木村 清香	福井	E		960.5
20	山口 麻理子	福井	E		932.5
21	林 佐知子	東京	E		929.0

F	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
22	松永 舞美	香川	U		789.0
23	伊与田 尚加	静岡	E		772.9
24	佐藤 智子	福岡	E		665.5
25	関家 朋子	東京	E		620.0
25	福森 智子	三重	E		620.0
27	小谷 翠	愛媛	E		597.3
28	志村 みち子	長野	E		571.8
29	永田 萌子	大分	J		540.0
30	佐々木 美恵	福井	E		527.8

[トラックレース]

男子エリート・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	在本 直樹	岡山	E		2,910.5
2	竹沢 浩司	富山	U		1,725.5
3	村上 義弘	JPCA	E	P	1,196.0
4	大森 慶一	北海道	U		1,000.0
5	福井 敬司	鳥取	E	m	995.2
6	篠原 忍	群馬	U		945.7
7	矢野 賢児	高知	E	m	896.0
8	伏見 俊昭	JPCA	E	P	840.0
9	井上 昌己	JPCA	E	P	800.0
10	稲村 成浩	JPCA	E	P	672.0

男子エリート・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	青木 亮太	群馬	U		2,409.5
2	湯原 正行	長野	E		1,932.0
3	金子 貴志	JPCA	E	P	1,672.0
4	櫻山 新太郎	福岡	U		1,090.0
5	前反 祐一郎	JPCA	E	P	840.0
6	伊勢崎 彰大	JPCA	E	P	800.0
7	久富 武	JPCA	E	P	750.0
8	上吹越 直樹	JPCA	E	P	696.0
9	吉松 直人	高知	U		671.7
10	篠原 忍	群馬	U		667.0

男子エリート・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	黒木 裕介	宮崎	U		2,723.5
2	浦門 義人	兵庫	E		1,742.0
3	佐々木 孝司	JPCA	E	P	1,490.0
4	坂口 博	愛知	E		1,485.0
5	飯島 規之	JPCA	E	P	1,472.0
6	伊藤 太一	山梨	U		1,262.0
7	諸橋 愛	JPCA	E	P	746.0
8	高橋 栄光	岩手	E		718.0
9	飯島 誠	JPCA	E	P	686.0
10	清水 良行	岡山	U		609.0

男子エリート・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	西谷 泰治	広島	U		3,100.0
2	高島 豪	埼玉	U		1,474.0
3	窓場 加乃敏	JPCA	E	P	1,322.0
4	大塚 英伸	JPCA	E	P	1,191.0
5	坂口 博	愛知	E		998.7
6	飯島 誠	JPCA	E	P	972.0
7	武藤 大輔	高知	E		926.6
8	岡本 健	和歌山	E	m	839.3
9	清水 都貴	鹿児島	U		817.6
10	飯島 規之	JPCA	E	P	800.0

## 男子エリート・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	朝倉 佳弘	東京	U		2,478.0
2	櫻井 丈 静	岡	U		1,310.0
3	小塚 浩二	石川	U		1,296.0
4	塩原 正長	広島	E	m	1,148.0
5	吉田 康則	岡山	E	m	1,084.2
6	石丸 健次	千葉	E	m	925.3
7	篠原 忍	群馬	U		902.0
8	山口 裕之	山形	U		713.2
9	小野 旭裕	兵庫	U		670.0
10	平岡 靖章	北海道	U		644.2

## 男子ジュニア・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	北津留 翼	福岡	J		3,730.0
2	前田 義和	鹿児島	J		1,582.5
3	疋田雄一朗	大分	J		1,248.0
4	屋良 朝春	沖縄	J	s	1,002.0
5	吉松 賢二	群馬	J		847.4
6	三澤 康人	宮城	J		841.0
7	川村 崇	東京	J	s	786.0
8	河端 朋之	鳥取	J		561.0
9	須賀 和彦	茨城	J		485.2
10	佐川 翔吾	大阪	J		436.6

## 女子・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	篠崎 新純	千葉	J		2,852.0
2	遠藤 友子	大分	J		2,086.0
3	太刀川麻也	茨城	E		1,840.0
4	中尾 友美	奈良	U		1,732.0
5	大菅小百合	長野	U		1,000.0
6	仁藤ひろみ	静岡	U		955.0
7	伊東 静香	宮城	J		921.0
8	濱田 真子	東京	E		842.0
9	遠山 恵	岩手	E		806.1
10	大菅 淳子	長野	U		750.0

## 男子エリート・4000m速度競走

MS	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	伊藤 太一	山梨	U		704.0
2	楠本 正昭	愛知	E		536.0
3	鈴木 謙一	静岡	U		471.0
4	出井 光一	千葉	E		435.5
5	糸賀 賢司	福島	U		254.6
6	増田 隆児	石川	U		219.0
7	松本 陽介	群馬	U		187.6
8	浪岡 宜隆	宮城	E		170.0
8	坂本 信也	富山	E		170.0
8	向川 尚樹	大阪	U		170.0

## 男子ジュニア・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	臼井 昌巨	岐阜	J		1,426.0
2	青木 康貴	岐阜	J		1,166.0
3	金澤 竜二	福島	J		981.0
4	熊谷 薫	福島	J		620.7
5	前田 雅則	和歌山	J		565.0
6	三瀧 光誠	山形	J		474.0
7	片折 勇輝	埼玉	J		418.6
8	吉田 裕全	埼玉	J		315.0
9	矢代 慎吾	富山	J		297.0
10	池田 丈志	奈良	J		293.1

## 女子・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	遠藤 友子	大分	J		2,236.0
2	中尾 友美	奈良	U		1,982.0
3	太刀川麻也	茨城	E		1,840.0
4	篠崎 新純	千葉	J		1,672.0
5	伊東 静香	宮城	J		926.2
6	須藤 朋美	福島	J		803.0
7	藤原亜衣里	新潟	U		727.5
8	遠山 恵	岩手	E		613.2
9	仁藤ひろみ	静岡	U		479.0
10	埋田 麻衣	大分	J		400.0

## 男子プロ・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	山田 裕仁	JPCA	E	P	1,000.0
2	山口 富生	JPCA	E	P	969.2
3	太田 真一	JPCA	E	P	917.6
4	齋藤登志信	JPCA	E	P	840.0
5	小橋 正義	JPCA	E	P	672.0
6	會田 正一	JPCA	E	P	546.0
7	堤 洋	JPCA	E	P	500.0
8	東出 剛	JPCA	E	P	420.0
9	星島 太	JPCA	E	P	235.2
10	新藤 敦	JPCA	E	P	168.0

## 男子ジュニア・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	三瀧 光誠	山形	J		1,434.2
2	身崎 琢磨	宮城	J		1,383.4
3	片山 智晴	岡山	J	s	1,362.2
4	坂本 昌宏	青森	J		1,360.2
5	小岩 大介	大分	J		1,198.5
6	松村 光浩	和歌山	J		1,156.6
7	中島 康晴	福井	J		1,145.0
8	池田 丈志	奈良	J		940.0
9	西村 光太	三重	J	u	711.0
10	立里 匡道	山形	J		520.0

## 女子・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	杉村 久美	岩手	E		2,385.0
2	齋藤 綾	秋田	U		2,312.0
3	村中恵美子	東京	E		1,779.5
4	大塚 歩	栃木	E		1,550.0
5	許斐真由子	鹿児島	U		1,142.7
6	越後 祥子	青森	J		757.0
7	中村 珠藻	奈良	U		725.2
8	須藤 朋美	福島	J		718.7
9	松尾 亜美	大分	J		692.0
10	木村 春恵	青森	U		672.0
10	唐見実世子	石川	E		672.0

## 男子ジュニア・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	橋本 強	愛媛	J		2,656.0
2	臼井 昌巨	岐阜	J		1,769.7
3	須賀 和彦	茨城	J		1,613.0
4	甲斐 康昭	群馬	J		1,046.0
5	川村 崇	東京	J	s	971.0
6	北津留 翼	福岡	J		640.0
7	金澤 竜二	福島	J		528.0
8	早坂 秀悟	宮城	J	u	492.6
9	浅井 康太	三重	J		452.0
10	小倉 知幸	福島	J	s	443.2

## 男子ジュニア・4000m速度競走

MS	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	竹山 陵太	宮城	J		713.6
2	矢代 慎吾	富山	J		652.0
3	佐藤 幸治	秋田	J		617.2
4	小野 哲裕	神奈川	J		615.5
5	福島 武士	香川	J		572.0
6	柿本 勇介	大分	J		510.2
7	小野 大介	福島	J		390.2
8	藤野 孝彦	佐賀	J	u	318.6
9	村上 純平	山形	J		296.7
10	川瀬 雅之	岐阜	J		271.6

## 女子・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	大塚 歩	栃木	E		2,630.0
2	齋藤 綾	秋田	U		2,254.0
3	杉村 久美	岩手	E		1,541.2
4	坂井田理沙	青森	U		1,510.0
5	松永 舞美	香川	U		1,268.7
6	許斐真由子	鹿児島	U		886.8
7	中村 珠藻	奈良	U		809.4
8	大塚 恵美	東京	U		748.0
9	木村 春恵	青森	U		546.0
10	森本 朱美	鳥取	E		526.0

.....  
 ・ エリート: E(プロ:EP、マスター:Em) .....  
 ・ アンダー23: U .....  
 ・ ジュニア: J(15才:Ju、18才で1~3月生:Js) .....  
 .....



# 競技大会 結果

大会名・チーム名等については略して記載

## MTB ジャパンシリーズ J2八幡浜 (9/28-29 愛媛・八幡浜市)

### XC男子リト (37.2km)

- 野口 忍 京都 トックJ. 1:47:19.61
- 白石 真悟 大阪 大阪大学 1:14:32.22
- 深谷 幸彦 愛知 TARGET 1:49:38.40
- 門田 基志 愛媛 焼鳥山鳥 1:50:18.23
- 笹部 勝 大阪 アオト 1:51:43.22
- 佐藤 貴巳 長野 Jamis 1:52:10.35
- 辻 義人 大阪 TeamMX 1:54:23.28
- 景山 英幸 愛知 Verdad 1:55:41.04
- 柴田健太郎 福岡 Q-MAX 1:57:31.21
- 坂本 裕規 大阪 Panara 1:58:14.91

### XC女子リト (18.6km)

- 高橋いずみ 東京 teamSY 1:20:39.74
- 深井 薫 大阪 FUN RI 1:21:20.92
- 酒井 真清 大阪 Be-One 1:22:35.73
- 榎本 梨絵 岡山 岡山大学 1:28:01.51
- 大上美夕紀 愛媛 走れ馬鹿犬 1:32:03.51
- 田中 裕子 長野 Q-MAX 1:38:25.82
- 下田 邦子 福岡 Q-MAX

## シカゴ・レクジョシリーズ 第1戦/長沼大会 (10/20 北海道・北長沼水郷公園)

### リト男子

- 三船 雅彦 ランド・ハ・ウクレジ ット 0:59:21
- 池本 真也 テスタッチ 0:59:30
- 深谷 幸彦 ターゲット 1:00:17
- 沢田 雄一 サイクルマインド 1:04:09
- 徳竹 哲也 スワコレ・シグ チム 1:05:11

### U23

- 山本 和弘 GAS・PANIC SP 1:00:24

### リト女子

- 福原 昌代 北大チームおとめ 0:37:39

## 全日本実業団ロードレース in 石川 (11/4 福島・石川)

### BR-1 (102.2km)

- 広瀬 敏 石川 日本舗道 2:42:29
- 鈴木 真理 JPCA シマル・シグ 2:42:29
- 田代 恭崇 JPCA プリヂ・ストン 2:42:29
- 新保 光起 JPCA 愛三工業 2:42:29
- 岡崎 和也 JPCA 日本舗道 2:42:43
- 福島 晋一 JPCA プリヂ・ストン 2:42:43
- 廣瀬 佳正 JPCA プリヂ・ストン 2:42:43
- 狩野 智也 JPCA シマル・シグ 2:42:50
- 今西 尚志 京都 シマル・シグ 2:42:50
- Kairat Baigudinov ガッパ ORBEA 2:42:59

### BR-2 (68.0km)

- 佐野 友哉 大阪 イキッ アダ 1:52:24
- 飯野 嘉則 東京 シマル・シ 1:52:47

- 森 真博 香川 SHIMONOKISH 1:52:47
- 沼田 信也 慶大 ORBEA 1:52:47
- 武田 秀明 大阪 カガ・アス 1:52:52
- 福田 透 滋賀 カガ・アス 1:52:52
- 杉澤 康之 三重 カガ・アス 1:52:52
- 石田 卓也 山形 ベ・クラブ 福島 1:52:52
- 金井 慎次 静岡 SPADE ACE 1:52:55
- 斉藤 寛 山梨 スワコレ・シグ 1:52:55

### BR-3 (54.4km)

- 大石 一夫 長野 日本アイランド 1:31:50
- 工藤 紀夫 宮城 ハ・フ・レ・シグ 1:32:07
- 諸田 展明 東京 T-serv. 1:32:20
- 岩橋 賦 東京 YUKIRIN 1:32:20
- 森山 大知 神奈川 ヒル・ノ・ア&ヤマダ 1:32:20
- 西澤 亮太 群馬 ハ・フ・レ・シグ 1:32:20
- 米野 淳 東京 スワコレ・シグ 1:32:20
- 班目真紀夫 福島 フレ・ノ・ア 1:32:20
- 宮本 学 千葉 セル・シグ 1:32:20
- 山口 公一 東京 CA GOODWHEEL 1:32:20

### ジュニア (61.4km)

- 湯坐 純 東白川農商高校 1:47:42
- 熊谷 薫 岩瀬農業高校 1:48:30
- 金澤 竜二 学校法人石川高校 1:49:42
- 島田 真琴 八王子工業高校 1:49:42
- 村上 純平 山形電波工業高校 1:49:42
- 立里 匡道 山形電波工業高校 1:49:42
- 舟木 誠 東白川農商高校 1:49:42
- 畑中 勇介 昭和第一学園高校 1:49:42
- 金山慎一郎 千葉経済付属高校 1:49:48
- 玉木 英典 学校法人石川高校 1:49:48

### 女子 (47.8km)

- 関家 朋子 東京 スワコレ・シグ 1:32:45
- 杉村 久美 岩手 スワコレ・シグ 1:33:34
- 佐藤 智子 福島 ORBEA 1:37:28
- 林 佐知子 東京 Vitesse-仔加 1:39:48
- 中山 朋子 神奈川 スワコレ・シグ 1:40:10
- 岡野 尚美 静岡 SPADE・ACE 1:40:15
- 濱田 真子 東京 スワコレ・シグ 1:45:47
- 石井 美保 千葉 フレ・ノ・ア 1:49:03

## シカゴ・レクジョシリーズ 第2戦/富士見大会 (11/9 長野・富士見高原)

### リト男子

- 小平 幸永 キャノン・ール 0:57:06
- 池本 真也 テスタッチ 0:57:19
- 小坂 正則 スワコレ・シグ チム 0:58:30
- 寛 五郎 テスタッチ 1:00:30
- 大塚 潤 ミヤタ・ル・シグ 1:00:47

### U23

- 内山 靖樹 ミヤタ・ル・シグ 1:00:38

### リト女子

- 真下 正美 チム・シナック 0:46:09
- 志村みち子 日本アイランド 0:47:01

## シカゴ・レクジョシリーズ 第3戦/黒部大会 (11/17 富山・黒部・クおおしま)

### リト男子

- 鈴木 雷太 プリヂ・ストンアカー 0:57:46
- 三船 雅彦 ランド・ハ・ウクレジ ット 0:57:53
- 池本 真也 テスタッチ 0:58:35
- 寛 五郎 テスタッチ 0:59:19
- 江下健太郎 愛三工業 0:59:22

### U23

- 内山 靖樹 ミヤタ・ル・シグ 0:59:20
- 山本 聖吾 長野高専 1:04:12

### リト女子

- 真下 正美 チム・シナック 0:40:41
- 唐見実世子 ハイシステム 0:42:49
- 志村みち子 日本アイランド 0:42:53

### レクジョシリーズ 総合順位 (第3戦まで)

### リト男子

- |                       | p  | p <sup>2</sup> |
|-----------------------|----|----------------|
| 1 三船 雅彦 ランド・ハ・ウクレジ ット | 40 | 850            |
| 2 池本 真也 テスタッチ         | 40 | 550            |
| 3 鈴木 雷太 プリヂ・ストンアカー    | 25 | 625            |
| 3 小平 幸永 キャノン・ール       | 25 | 625            |
| 5 小坂 正則 スワコレ・シグ チム    | 10 | 100            |
| 5 深谷 幸彦 ターゲット         | 10 | 100            |
| 7 寛 五郎 テスタッチ          | 10 | 50             |
| 8 沢田 雄一 チム サイクルマインド   | 5  | 25             |

### リト女子

- 真下 正美 チム・シナック 50 1250
- 福原 昌代 北大チームおとめ 25 625
- 志村みち子 日本アイランド 25 325
- 唐見実世子 ハイシステム 15 225

### U23

- 内山 靖樹 ミヤタ・ル・シグ 50 1250
- 山本 和弘 GAS・PANIC SP 25 625
- 山本 聖吾 長野高専 15 225

## 2002年BMX

### JBMXFス・ハ・シリーズ・ラング

- 三浦 進 KBU 644 p
- 黒田 淳 岡山 633 p
- 阪本 章史 KBU 484 p



## 2002ツール・ド・台湾 日本代表選手団

大会名 2002ツール・ド・台湾

開催場所 台湾・高雄周辺

大会期間 平成14年11月26日～12月1日

派遣期間 平成14年11月24日～12月2日

派遣選手団

- 選手 新保 光起 JPCA 愛三工業  
江下健太郎 JPCA 愛三工業  
真鍋 和幸 JPCA ミヤタ・ル  
中川康二郎 茨城 ミヤタ・ル  
別府 匠 神奈川 日本舗道

スタッフ

- 監督 高橋 松吉 連盟強化コーチ  
幼ニツ 斎藤 健吾 スワコレ・シ  
マッサー 石田 宗男 連盟強化スタッフ

## JOC オリンピック・フェスティバル 2002



毎年、スポーツに親しむ機会の提供、青少年とオリンピックとのふれあいとオリンピックムーブメントの普及・啓蒙を目的に日本オリンピック委員会が開催しているオリンピックフェスティバルが、10月20日(日)に東京・駒沢オリンピック公園総合運動場で行われた。

各競技のオリンピックが講師として十数競技の紹介が行われ、自転車競技は2000年シドニーオリンピックのマウンテンバイク代表鈴木雷太が講師となり、中央広場に一本橋、スロープ、丸太橋でコースを設定し実際に自転車での走行を体験してもらった。

一時は自転車が空くのを待つ列が出来るほどで、延べ350名以上が体験し自転車競技への関心の深さを実感した。

## 県車連だより

大分県自転車競技連盟よりお手紙いただきましたのでご紹介させていただきます。

本誌におきましては、都道府県単位の大会の記事がそれほど見受けられませんので、本県の大会についてお知らせし、広く皆様よりご意見・ご忠告・ご質問を賜れば幸いと思い、また多少なりとも底辺の普及拡大に繋がればと思ひ筆をとりました。

なお、他府県におきましても如何様に大会(運営等)が実施されているか興味がありますので、情報をご提供下されば有難いです。

大分県自転車競技大会は今年で55回を迎えました。戦後間もない昭和23年に始まり、その間1回の中止もなく今回に至りました。この大会は大分県総合体育大会34競技の1つとして実施されており、県内老若男女のサイクリストが最も楽しみにしている大会です。なお、この大会からはツール・ド・フランス出場の今中大介選手やオリンピック選手また多くの競輪選手が巣立っていきました。

今年は9月7日(土)にロードレース(上津江村・オートポリス)、8日(日)にトラックレースが緊張の中にも和気あいあいと行われました。参加都市は17都市(23郡市中)、参加選手数は178名で過去最高でした。団体総合優勝は大分市(67点)で22勝、2位大野郡(67点)、3位北海部郡(64点)で、落車事故は1件2名(ケイリン決勝)でした。

今後の課題として、①不参加都市への参加の働きかけ ②女子種目の新設 ③機材・消耗品の確保、④ロードレース会場の各都市への持ち回りなどが挙げられました。  
(大分県車連理事長 高野 晃)

### 【大会概要】

大会名	第55回大分県民体育大会 自転車競技大会
種別	男子都市対抗(高校生を除く)
参加チーム	監督1名、選手9名、補欠3名の13名以内で構成
種目	1km速度競走・6kmPR・400mTT(40歳以上)・400mTT(50歳以上)・1kmTT・ケイリン・エリミネーション:各1名、2km団抜・個人ロード:5名、ロード団体
	計10種目

## オープン・デ・ケイリン2002 日本代表選手団

大会名 オープン・デ・ケイリン2002  
開催場所 フランス・ポルドー  
大会期間 平成14年11月17日  
派遣期間 平成14年11月13日～19日  
派遣選手団

選手 松本 整 JPCA京都  
山田 裕仁 JPCA岐阜  
渡辺 晴智 JPCA静岡  
小嶋 敬二 JPCA石川  
太田 真一 JPCA埼玉  
堤 洋 JPCA徳島

スタッフ  
監督 大和 孝義 JPCA  
コーチ 広瀬 来 JPCA  
効カ 鬼原 積 連盟強化スタッフ

## オーストラリア・ユース・オリンピック・フェスティバル2003 日本代表選手団

大会名 オーストラリア・ユース・オリンピック・フェスティバル  
開催場所 シドニー・オーストラリア  
大会期間 平成15年1月8日～12日  
派遣期間 平成15年1月6日～13日  
派遣選手団

男子 菅田 竜道 宮城・仙台商業高校  
早坂 秀悟 宮城・仙台商業高校  
金澤 竜二 福島・学法石川高校  
新田 祐大 福島・白河高校  
松田 優一 茨城・取手第一高校  
笹倉 慎也 富山・水橋高校  
北津留 翼 福岡・豊国学園高校  
藤野 孝彦 佐賀・龍谷高校

女子 篠崎 新純 千葉・千葉経済大学附属高校  
松尾 亜美 大分・日出暘谷高校

スタッフ 監督 班目 秀雄 連盟強化コーチ  
コーチ 塚崎 邦嗣 大分・日出暘谷高校  
渡辺 幸博 福岡・豊国学園高校

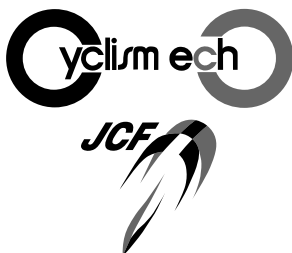
## 連盟の動き (10月下旬～11月中旬)

- 10月19日 第3回選手強化委員会 於：静岡県・大仁  
第1回選手強化委員会・医科学部会・強化スタッフ部会 合同会議
- 20日 2002年世界室内選手権日本代表選手団出発(帰国 30) 於：オーストリア・ドルンビルン
- 28日 平成15年度公益補助金要望に係わるヒヤリング 於：日本自転車振興会
- 11月6日 トラック強化合宿 於：国立スポーツ科学センター(～8日)
- 7日 第1回JCF連絡協議会
- 12日 平成15年度公益補助金要望に係わるヒヤリング 於：経済産業省車両課
- 15日 C級コーチ養成専門科目講習会(前記) 於：日本CSC、サイテル(～18日)
- 16日 第3回競技運営委員会
- 17日 ロード強化合宿 於：国立スポーツ科学センター(～21日)

## 編集後記

朝晩の空気が凛と冷たい季節になった。自転車に乗ると一気に体が冷やされるもののじっと耐えて5分も走ればやがて体が温まり心地よさになってしまう。選手にとってはまだまだ良い季節なのだろうか。丘陵地や山岳地でカラフルなウェアに包まれ美しいフォルムで走り行く姿を多く見かける。そう言えば長い山坂を登り切った時、ふと目にする景色は格別で普段より数段キレイに見えるのは必死に自転車をこぐことで体の中、はては心の中まで温められるからなのでしょうか？

さて、今年も57回を数え国民体育大会が行われました。国体を開催する各都道府県車連は前々年に全日本アマチュア選手権を主催。前年にプレ国体である都道府県対抗大会。その翌年に国体を迎えるという形を取り準備を進めて行きますが、国体が各県を回っていくという性質上開催県となった都道府県車連のご苦労は大変なものようである。中心者の方に話を聞けば数ヶ月前から準備に追われ関係書類は1冊の本が作れるほどになるという。そこで毎年同じ内容の大会を行っているのだから書類も含め大会開催のマニュアルとして次県に残せたら又残してもらえたらありがたいとの意見も耳にしている。これまでもそしてこれからも利害を超え使命感と責任感でこれらの大会の成功を推進する人達に支えられていくのですが、変わり行く社会情勢の中、無理なく開催出来る様に再構築していくことも同時に進められていく必要があると思います。(吉田 八栄子)



シクリスムエコー No.92 2002年11月号

発行/財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/岩橋 昭一

編集人/村田 統司

編集事務局/財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>